

〔 編 集 後 記 〕

第91巻第6号では症例報告2編，千葉医学会奨励賞受賞研究論文1編，学会紹介3編，猪之鼻奨学会研究報告1編，そして千葉医学会賞受賞論文1編が掲載されています。

症例報告1は，長野中央病院外科の和城光庸先生，本学臓器制御外科学の宮崎 勝先生の共著で，傍十二指腸ヘルニアの高齢女性患者さんの報告です。内ヘルニアの術前診断は簡単ではないそうですが，本症例ではCT・造影X線検査にて診断をされています。保存的治療では還納せず手術を行い良好な経過を取りましたが，稀な症例であり詳細な診断・治療経過を報告されました。

症例報告2は，本学整形外科学，環境生命医学の芝山昌貴先生らによる近位手根列切除患者さんの橈骨手根骨関節のCT有限要素解析法を用いた応力変化の報告です。従来，手関節については新鮮凍結屍体を用いた研究のみが報告されていましたが，芝山先生らは有限要素モデルという技術を用いて実際の患者さんで手術後の月状骨，舟状骨への掌屈位，背屈位での応力を測定しました。その結果，屍体を用いた従来との報告と異なり，月状骨窩と船状骨窩への応力がほぼ同等であることを見出しました。大関節では新鮮凍結屍体標本での解析結果と患者でのCT有限要素法での解析結果に大きな差は少ないようですが，サイズが小さく複雑な形状をとる手関節では屍体標本での測定よりもCT有限要素法の有用性が明らかにされました。

千葉医学会奨励賞受賞研究論文は，アレルギー・膠原病内科の田中 繁先生の「Th17細胞分化におけるSox5の役割」です。Th17細胞はCD4陽性ヘルパーT細胞の亜群のひとつでIL-17などのサイトカインを産生して自己免疫疾患の病態に大きく関与しています。田中先生は多発性硬化症の動物モデルである実験的自己免疫性脳脊髄炎(EAE)などを対象としてTh17細胞の分化・機能発現にSox5が同じく転写因子であるc-Mafと複合体を形成して深く関与することを明らかにしました。将来のTh17細胞の制御による自己免疫疾患の新規治療法開発につながることを期待されます。

千葉医学会との合同例会としては，細胞治療内科学，消化器・腎臓内科学，泌尿器科学と3つの学術集会が紹介されています。いずれも多く興味ある演題が報告されており，ご自身の専門と異なる領域であってもトレンドがなにかという点から拝見しますと興味深いと思われます。

猪之鼻奨学会研究報告としては，附属病院薬剤部の高塚博一先生，整形外科 山口智志先生，地域医療連携部 土井俊祐先生，順天堂大学環境研究所 富永光俊先生，島根大学総合理工学/千葉大薬学研究院 鈴木優章先生，と5編の報告をいただいています。いずれも大変興味深い研究成果であり，ぜひご一読いただければと存じます。日常診療のヒントになることも多いと思います。

最後に，第七回千葉医学会賞受賞論文として千葉大学整形外科教室の國府田正雄先生らによる「急性脊髄損傷に対する顆粒球コロニー刺激因子を用いた神経保護療法：基礎から臨床試験まで」が掲載されています。顆粒球コロニー刺激因子(G-CSF)は骨髄中の顆粒球を増加させるサイトカインですが，國府田先生らは脊髄損傷の回復効果を，細胞，実験動物レベルで証明し，ヒトでの安全性試験を終えて，いよいよ医師主導治験として日本医師会治験促進センターからの研究費を得てランダム化二重盲検臨床試験を行うことになりました。最近では介入研究を行うにあたって研究計画をあらかじめ登録しておくことが必須となっており，日本では大学病院医療情報ネットワーク研究センター(UMIN)が登録先となっています。介入研究ではその計画をプロトコルペーパーとして論文にしておくことがあります。本受賞論文では最後にプロトコルについても述べられており，介入研究を行う予定の先生方の参考になると思われます。

今回，編集後記を担当し改めて千葉医学雑誌の内容を拝見させていただき，大変触発されました。今後も千葉医学の発展のため微力を尽くしたいと存じます。皆様のご支援，ご協力をよろしくお願い申し上げます。(編集委員 下条直樹)